

経営概要書

法人名：

十和田ホテル 株式会社

(株 4)

代表者職氏名	代表取締役 工藤 雅一
所在地	小坂町十和田湖字鉛山無番地

所管部課名	観光文化スポーツ部観光戦略課
設立年月日	平成9年12月5日

【沿革及び県の出資理由】

歴史的・文化的価値の高い十和田ホテルを後世に伝えるとともに、同ホテルの効率的な運営を図り、もって十和田地域の観光の振興に寄与することを目的に県等の出資により平成9年12月設立。

【出資者】 (H26年度当初)

(単位:千円、%)

区分	団体数	出資額	構成比
秋田県	1	100,000	40.0%
市町村	3	25,000	10.0%
その他	15	125,000	50.0%
計	19	250,000	100.0%

【事業】

①主たる業務

- 十和田ホテルの諸施設の管理運営業務
 - 酒類、食料品、土産物等の販売
- 上記に付帯する一切の業務

②事業実績

(単位:人)

事業名等	H23年度	H24年度	H25年度
宿泊客	12,226	13,835	12,324

③H25年度事業概要及び26年度事業計画・目標

(H25年度事業概要) 平成25年度は、秋田DC(10月～12月開催)による東日本大震災以降の十和田湖周辺観光客の増加効果を期待したものの、特定の観光地や施設に客が偏るなどの地域差があり、当地区における観光入込は依然として厳しい状況となっている。このような状況下、昨年に引き続き、冬期間(12月～3月)の宿泊個人客、通年のランチ、入浴休憩の個人客の営業休止等、事業採算性を重視した経営を継続した。宿泊客については、一般団体客、特にコース変更になったエスコートツアー(募集)獲得のため、首都圏等へのセールスを展開し、個人客は引き続き、お手頃価格限定プラン等を販売した。更に、インターネット経由予約客獲得のため、ホームページを常に更新し、宿泊人員確保に注力した。その結果、宿泊客は、前期比△1,511名の12,324名(△10.9%)となった。また、収支については、ホテル全体の当期売上高は209百万円(前期比△16百万円、△7.4%)となったものの、営業費用において、売上減少に伴う変動費(材料費・人件費・手数料・業務委託費等)の最小化や固定費項目ごとの削減を図ったことにより、営業利益5百万円(前期比△3百万円)、経常利益5百万円(前期比△3百万円)を計上することができた。

(H26年度事業計画・目標) 平成26年度目標 営業収益200,000千円 経常利益5,000千円 CSを維持しつつ更なる効率的な経営を図る。

【組織】

①役員数(H26.7.1現在)

(単位:人)

区分	取締役		監査役	
	H25	H26	H25	H26
常勤	1	1		
内、県退職者				
内、県職員				
非常勤	8	8	1	1
内、県退職者				
内、県職員	1	1		
計	9	9	1	1
内、県関係者	1	1		

役員報酬支給対象者数(H25年度)	2人
役員報酬支給対象者平均年齢	58歳
平均役員報酬額(H25年度)	5,700千円/年

②職員数(H26.4.1現在)

(単位:人)

区分	H25	H26	正職員 平均年齢 33.0歳	正職員 平均勤続年数 9.0年
正職員	6	5		
内、県退職者				
出向職員				
内、県職員				
臨時・嘱託				
内、県退職者				
計	6	5		
内、県関係者				

正職員平均年収(H25年度) 3,038千円

【財務】

①損益計算書

(単位:千円)

区分	平成24年度	平成25年度
売上高	225,396	208,807
売上原価	192,781	177,373
売上総利益	32,615	31,434
販売費及び一般管理費	25,007	26,890
人件費(売上原価含む)	70,337	64,123
営業利益(損失)	7,608	4,544
営業外収益	24	17
営業外費用	2	20
経常利益(損失)	7,630	4,541
特別利益	33,417	
特別損失	260	269
法人税・住民税・事業税	3,389	572
当期純利益(損失)	37,398	3,700

②貸借対照表

(単位:千円)

区分	平成24年度	平成25年度
流動資産	121,834	91,657
固定資産	3,970	4,815
資産計	125,804	96,472
流動負債	9,526	6,493
短期借入金		
固定負債	30,000	
長期借入金	30,000	
負債計	39,526	6,493
資本金	250,000	250,000
利益剰余金等	△ 163,722	△ 160,021
純資産計	86,278	89,979
負債・純資産計	125,804	96,472

退職給与引当状況	(単位:千円)		
	要支給額	引当額	引当率(%)
	0	0	%

区分	平成24年度	平成25年度
県の貸付金残高	—	—
県の損失補償残高	—	—
県の債務保証残高	—	—

【県の財政支出】

(単位:千円)

	平成23年度	平成24年度	平成25年度	支出目的・対象事業概要等
補助金				
委託費				
指定管理料				
貸付金				

経営評価表

法人名：

十和田ホテル 株式会社

(株 4)

1 主な経営指標

項目		単位	H23年度	H24年度	H25年度	H23-24増減	H24-25増減
健全性	自己資本比率	%	57.65	68.58	93.27	10.93	24.69
	借入金依存率	%	35.38	23.85	0.00	△ 11.53	△ 23.85
	流動比率	%	1,372.26	1,278.96	1,411.63	△ 93.30	132.67
収益性	剰余金(△欠損金)	千円	△ 201,120	△ 163,722	△ 160,021	37,398	3,701
	経常利益率	%	0.34	3.38	2.17	3.04	△ 1.21
	総資本利益率	%	0.79	6.06	4.71	5.27	△ 1.35
効率性	総資本回転率		2.29	1.79	2.16	△ 0.50	0.37
	職員1人当たり経常収入額	千円	8,102	8,051	7,201	△ 51	△ 850
	人件費比率	%	34.10	31.20	30.71	△ 2.90	△ 0.49

2 経営目標の達成状況

経営目標		区分	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度
指 経営改善目標	経常利益額(千円)	目標	△ 13,328	7,600	11,150	5,000
		実績	667	7,630	4,541	
	売上高経常利益率(%)	目標	△ 6.8	3.6	5.0	2.5
		実績	0.3	3.4	2.2	
指 事業成果	売上高(千円)	目標	193,780	215,000	221,650	200,000
		実績	194,166	225,396	208,807	
	個人客宿泊人数(人)	目標	8,720	11,140	11,410	12,000
		実績	10,449	10,244	9,411	
顧客満足度指数		目標	89	89	90	90
		実績	88	89	89	

3 経営状況及び課題、経営目標の達成状況についての自己評価

十和田地区の観光入込は依然として厳しい状況にあるものの、ローコストオペレーション等事業採算性を重視した経営により、当期純利益約3,700千円を計上し、累積債務の解消を図っている。

〈顧客満足度調査の結果を受けて実施する取組〉

フロント係員が毎日、全館をウォークスルーし、ほこり等の汚れのチェックはもちろんのこと、電球切れ、危険箇所の有無などの確認を行うこととした。

〈H25年度経営評価指摘事項(早期の改善が望まれる事項)〉

指摘事項：なし

措置状況：

4 総合評価(計算書類等の資料による評価)

A 概ね良好	B 改善の余地あり	C 改善措置が必要
--------	------------------	-----------

・宿泊客数減少に加えて低採算事業を休止したこと等により、売上高は前年度に比して16,589千円減少した。また、低採算事業の経費が剥落したこと等により、営業費用(売上原価・販売費及び一般管理費)は前年度に比して13,525千円減少した。よって、営業利益は前年度比3,064千円減少の4,544千円となった。経常利益は前年度比3,089千円減少の4,541千円、当期純利益は前年度の東電からの賠償金収入が剥落したことにより前年度比33,698千円減少の3,700千円となった。
 ・利益剰余金等は△160,021千円と繰越欠損であり、欠損の累積は年々減りつつあるものの期間損益の水準に比して過大で解消には長期間を要することから、財務基盤は安定しているとは言えない。
 ・経営改善指標については固定費の削減効果が追い付かず「経常利益額」、「売上高経常利益率」ともに目標を大きく下回った。事業成果指標については売上高は概ね目標水準を確保したものの「個人客宿泊人数」は減少傾向が続いており目標に達しなかった。

【改善が望まれる事項】

・前年度の賠償金収入は一過性のものであり、これを除いた実力ベースの当期純利益は前年度比で281千円の減少とほぼ横ばいであった。引き続き採算面からの事業効率性を意識するとともに、観光客の取込みのため県や地域の自治体・団体との連携を強めて宿泊人数の目標を達成することが望まれる。